

# 重粘土地帯での「焼酎用カンショ」の栽培技術の確立に取り組んでいます

## 背景・目的

佐賀県では、収益性の高い園芸農業の振興に取り組んでいます。そのような中、焼酎原料用カンショは、近年北部九州での作付ニーズがあり、令和5年度から佐賀県内でも作付が開始されました。しかし、佐賀県の粘土質土壌での適した品種・栽培条件が不明です。

そこで試験場では、有望品種の定植時期・収穫時期の違いによる収量・品質への影響を調査しました。また、堆肥などの有機物施用による増収効果・土壌改良効果についても調査しました。



コガネセンガン



みちしずく

## 令和7年度までの成果

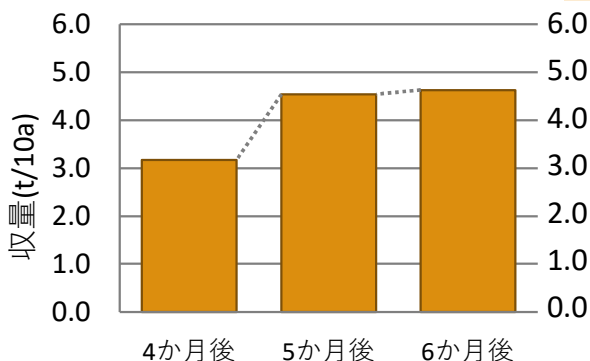
### 【有望品種の収量性試験】

試作した2品種とも、4月に定植すると、4か月後に3トン/10a程度、5か月後に4.5トン/10a程度収穫できる。粘土質土壌でも、焼酎用カンショは栽培可能である。

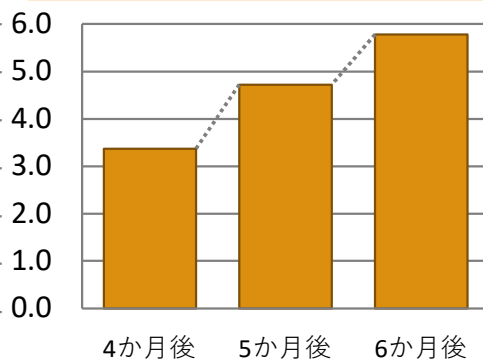
### 【堆肥施用試験】

堆肥施用1年目は収量に差はなかった。窒素過多によるつるボケや、収量減も見られなかった。次年度以降、連年施用を行い調査を続ける。

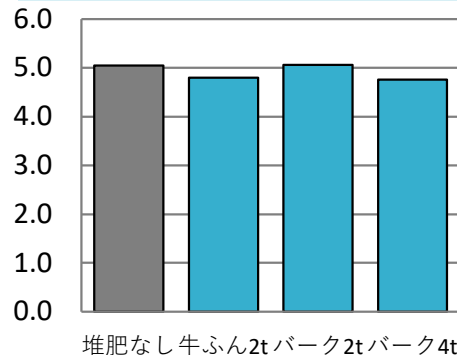
#### コガネセンガン



#### みちしずく



#### 堆肥施用試験



## 今後の計画

- ①新たな有望品種「コガネタイガン」等の収量品質の確認。
- ②堆肥等を連年施用した場合の増収効果・土壌改良効果を明らかにする。